Panasonic

施工説明書
取扱説明書
保管用

SmartArchi

ＬＥＤアーキテクチャルラインタイプ

（一般屋内用）

光　色	器具タイプ	高光束タイプ	低光束タイプ
昼白色【5000K】	単体用	FYY(FYYH)26350	FYY(FYYH)26250
	中　用	FYY(FYYH)26351	FYY(FYYH)26251
	右　用	FYY(FYYH)26352	FYY(FYYH)26252
	左　用	FYY(FYYH)26353	FYY(FYYH)26253
白　色【4000K】	単体用	FYY(FYYH)26340	FYY(FYYH)26240
	中　用	FYY(FYYH)26341	FYY(FYYH)26241
	右　用	FYY(FYYH)26342	FYY(FYYH)26242
	左　用	FYY(FYYH)26343	FYY(FYYH)26243

光　色	器具タイプ	高光束タイプ	低光束タイプ
温白色【3500K】	単体用	FYY(FYYH)26300	FYY(FYYH)26200
	中　用	FYY(FYYH)26301	FYY(FYYH)26201
	右　用	FYY(FYYH)26302	FYY(FYYH)26202
	左　用	FYY(FYYH)26303	FYY(FYYH)26203
電球色【3000K】	単体用	FYY(FYYH)26330	FYY(FYYH)26230
	中　用	FYY(FYYH)26331	FYY(FYYH)26231
	右　用	FYY(FYYH)26332	FYY(FYYH)26232
	左　用	FYY(FYYH)26333	FYY(FYYH)26233

・上記（　）内は加工品番です。（以降、加工品番の記載を省略します。）

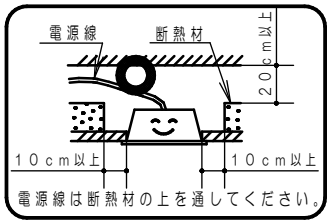
・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

施工説明　**工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。**

安全に関するご注意

⚠警告

●施工は、施工説明にしたがい確実に行う。施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。
●器具を分解、改造しない。　落下・感電・火災の原因となります。
●表示された電源電圧（定格電圧±６％）・周波数で使用する。
　指定外の電源電圧・周波数で使用すると、感電・火災の原因となります。
●断熱材、防音材をかぶせて使用しない。火災の原因となります。
●水平天井埋込専用ですので、壁取付や天井直付はしない。
　落下・感電・火災の原因となります。
●光源として高輝度ＬＥＤを使用しています。光源部（ＬＥＤユニット部）を長時間直視しないでください。
　眼に障害をあたえるおそれがあります。



⚠注意

●直射日光の当たる場所、湿気の多い場所、振動の強い場所、雨水のかかる場所、腐食性ガスの発生する場所では使用しないでください。
　落下・感電・火災の原因となります。
●周囲温度は、５～３５℃以内で使用してください。　指定外の周囲温度で使用すると、ちらつきや耐用年限が短くなる原因となります。
●一般屋内でご使用の場合でも、器具周辺に硫黄成分が存在する場所では使用しないでください。
　（一部の食品や薬品、紙類などには硫黄成分が含まれます。また、車の排気ガスにも硫黄成分が含まれます。）
　光学性能に影響を与える場合があります。
●パネルに衝撃を与えたり、無理な力をかけないでください。パネル破損による落下の原因となります。
●パネルはキズ・汚れが付きやすいため、取扱いにご注意ください。
●器具の取り付け・取り外しは手袋などの保護具を使用する。けがのおそれがあります。

施工上のご注意

・スイッチを接地側に取り付けた場合、消灯後も薄暗く発光する場合がありますので、必ず非接地側（電圧側）に取り付けてください。
　（接地側の無い電源では両切りスイッチをおすすめします。）
・入力電圧が２４２Ｖの場合、消灯直後、数回間欠点灯する場合がありますのでスイッチは必ず非接地側にお取付けください。
・当社製フル２線式リモコンＴ／Ｕ付６Ａリレーを使用する場合、照明器具の接続台数に制限があります。
　詳細については、該当Ｔ／Ｕ付６Ａリレーのカタログ・商品仕様書を参照してください。
・起動方式”ＬＡ”の器具は、当社適合コントロールとの組合せにより、光出力を約１０～１００％に変化させることができます。
　適合コントロールは当社製品を使用してください。適合コントロールの注意事項については適合コントロールの説明書を確認してください。

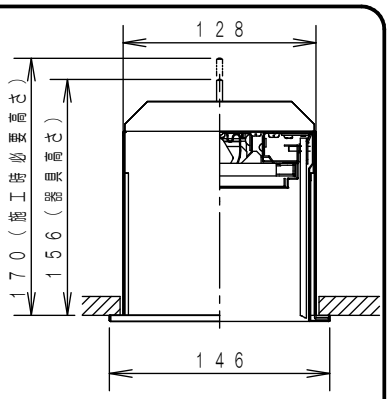
■結線について
　・コントロールの結線は、コントロールの説明書をご確認ください。
　・電源線は低圧屋内配線工事、調光信号線は弱電流配線工事が必要です。
　・調光信号線は電源線と束ねないでください。誤動作の原因となります。
　・電線管をご使用の場合は、電源線と調光信号線を同じ管内に収納しないでください。

各部のなまえと取付方法

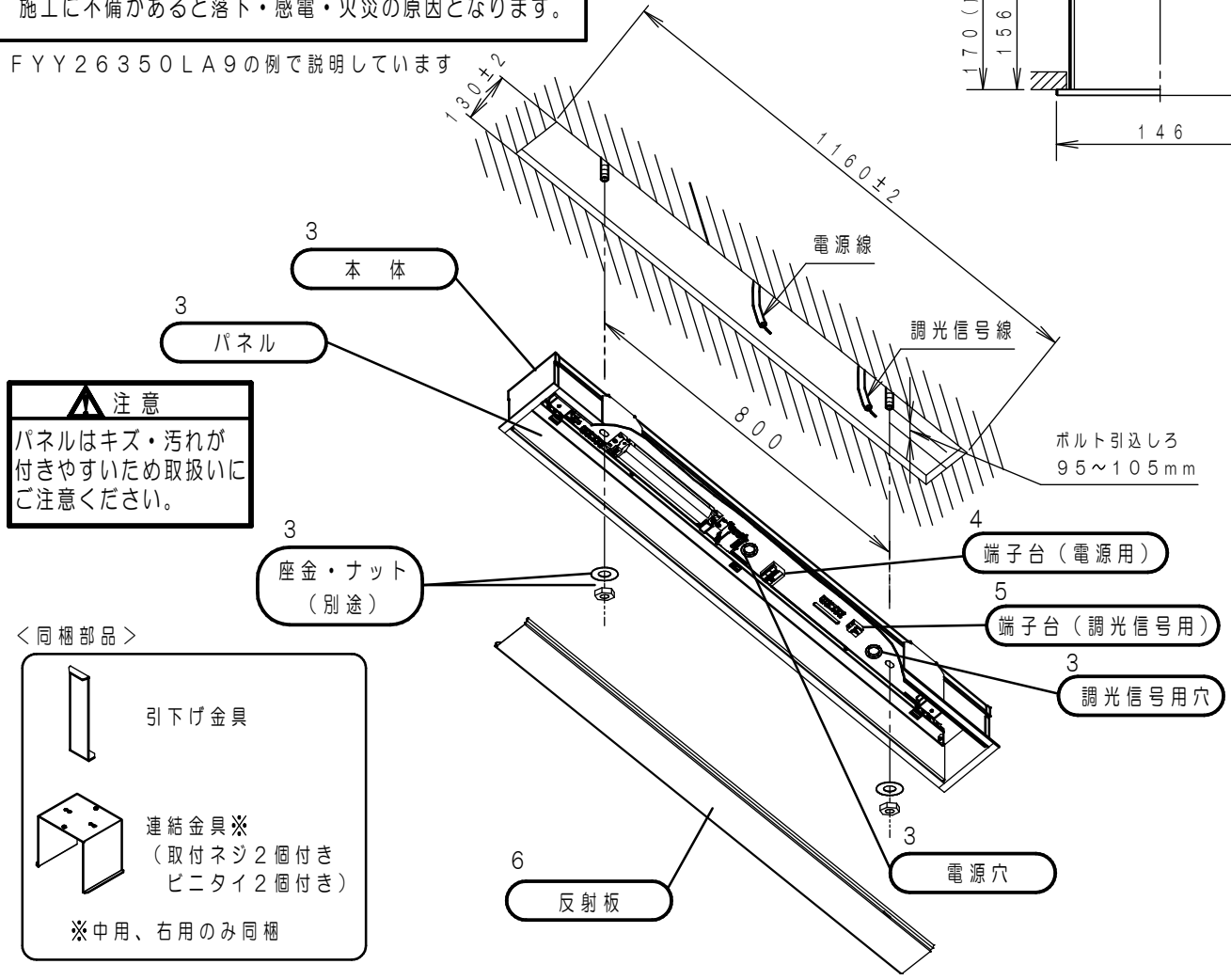
⚠警 告

●反射板の取り付け・取り外しの際は必ず電源を切る。
●施工は、施工説明書にしたがい確実に行う。
施工に不備があると落下・感電・火災の原因となります。

最低天井裏寸法１７０mm以上確保する。
（バネ操作に必要な寸法です。）



ＦＹＹ２６３５０ＬＡ９の例で説明しています



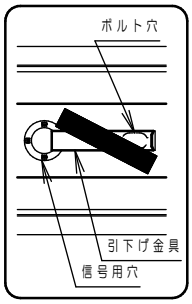
⚠注 意
パネルはキズ・汚れが付きやすいため取扱いにご注意ください。

＜同梱部品＞

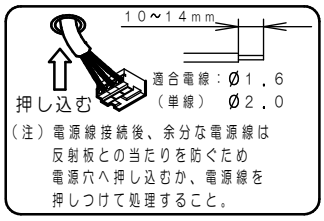
1 取付前の確認
・器具質量（７．５ｋｇ）に 十分に耐えるよう、ボルト取付部の強度を確保する。
取付ボルトは、Ｗ３／８又はＭ１０を使用する。
・ボルトは極端な斜め出しにならないこと。
不備があると器具落下の原因となります。

2 埋込穴の開口
・埋込穴、取付ボルトを図のように用意しておく。

3 本体の取付
・本体から同梱部品の引下げ金具を取り外す。
・電源線・アース線を本体の電源穴から引き込んでおく。
・調光信号線を本体の調光信号用穴から引き込んでおく。
・本体を取付ボルトに確実に取り付ける。
（推奨トルク：０．８Ｎ・ｍ）
（締め過ぎると器具、天井材が変形、破損する場合があります）
・器具内線を座金やナットで挟み込んでいないか確認する。
座金はØ３０以下を使用する。
不備があると器具落下、感電、火災の原因となります。
・パネルに衝撃を与えたり、無理な力をかけない。
パネル破損による落下およびキズの原因となります。
・連結の場合は、3ページ「＜連結の場合の本体と反射板の取付方法＞」を参照してください。

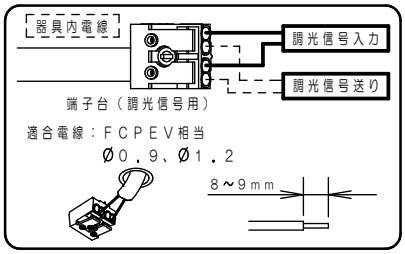


4 電源線・アース線の接続
・電源線、アース線を確実に差し込む。
・Ｄ種（第３種）接地工事が必要。
・端子台の容量は、２０Ａです。
（送り機能付）



（注）電源線接続後、余分な電源線は反射板との当たりを防ぐため電源穴へ押し込むか、電源線を押しつけて処理すること。

5 調光信号線の接続
・「調光信号用」と表示のある端子台に接続する。
・調光信号線を確実に差し込む。
・調光信号線に極性はありません。
接続が不完全な場合、正常に調光できなくなります。



6 反射板の取付
・3ページ「＜反射板の取付方法（取外方法）＞」を参照してください。
不備があると、反射板の落下の原因となります。

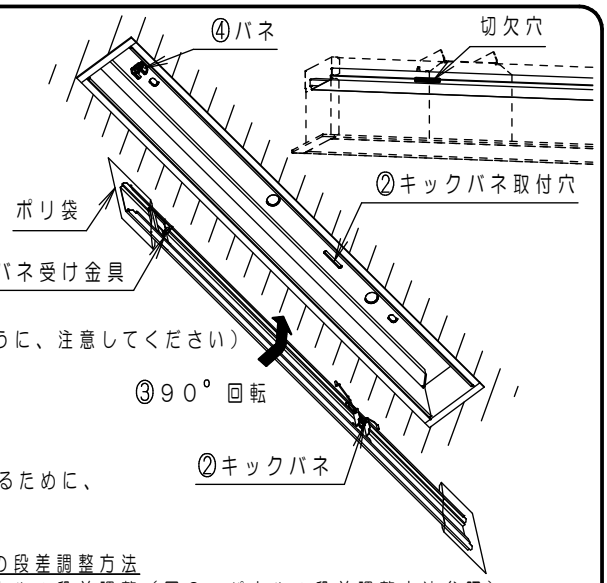
各部のなまえと取付方法

＜反射板の取付方法（取外方法）＞

⚠ 注 意
パネルはキズ・汚れが付きやすいため取扱いにご注意ください。

反射板の取付方法
①反射板を図のような向きにする。
②両端のポリ袋をつけたまま反射板を持ち上げキックバネを本体のキックバネ取付穴に取り付ける。
③反射板を９０°回転させる。
④反射板を押し上げ、バネにバネ受け金具を取り付ける。
⑤反射板をおさえながら両端のポリ袋を取り外す。

反射板の取外方法
・切欠穴（２ヶ所いずれか）に同梱の引下げ金具を差込み反射板を引き下ろす。
（コンベックスなどのＬ字の金具で取外す事も可能ですが、パネルをキズ付けないように、注意してください）
・バネから取り外す。
・キックバネを取り外す。



＜連結の場合の本体と反射板の取付方法＞

・連結の場合、本体・反射板の取り付けには順番があります。連結右用から、順に取り付ける。（図１　施工手順参照）取り付け後、本体同士のスキマを防止するために、寄せ合いながら取り付ける（推奨トルク：０．８Ｎ・ｍ）。
パネルの段差を調整する際は、反射板を取り付ける前に調整を行ってください。
不備があると器具落下の原因となります。

本体取付方法
①連結金具を右用本体のソエ板側に取り付ける
（図４　連結金具の取付方法参照；①、③、⑤、⑦）
②右用本体を施工する
③連結金具を中用本体のソエ板側に取り付ける
④中用本体を施工する
⑤右用本体に取り付いている連結金具を中用本体に取り付ける
⑥左用本体を施工する
⑦中用本体に取り付いている連結金具を左用本体に取り付ける
※本体の段差が発生した場合は、締付トルクの強弱で調整してください
（図２　本体の段差調整参照）
※天井面にスキマが発生している場合は、ナットを増し締めしてください
（最大１．０Ｎ・ｍまで）

パネルの段差調整方法
⑧パネルの段差調整（図３　パネルの段差調整方法参照）

反射板取付方法
⑨キックバネで仮固定し、右用反射板を右用本体に取り付ける
⑩，⑪右用反射板をおさえながらポリ袋を取り外す
⑫キックバネで中用本体に仮固定し、⑬の前にポリ袋を取り外す
⑬中用反射板を中用本体に取り付ける
⑭中用反射板をおさえながらポリ袋を取り外す
⑮キックバネで左用本体に仮固定し、⑯の前にポリ袋を取り外す
⑯左用反射板を左用本体に取り付ける
⑰左用反射板をおさえながらポリ袋を取り外す
※反射板同士のスキマは均一になるように取り付けてください
※中用器具が複数台ある場合は③～⑤および⑫～⑭を台数繰り返し実施し、次の手順へ進んでください

図１　施工手順

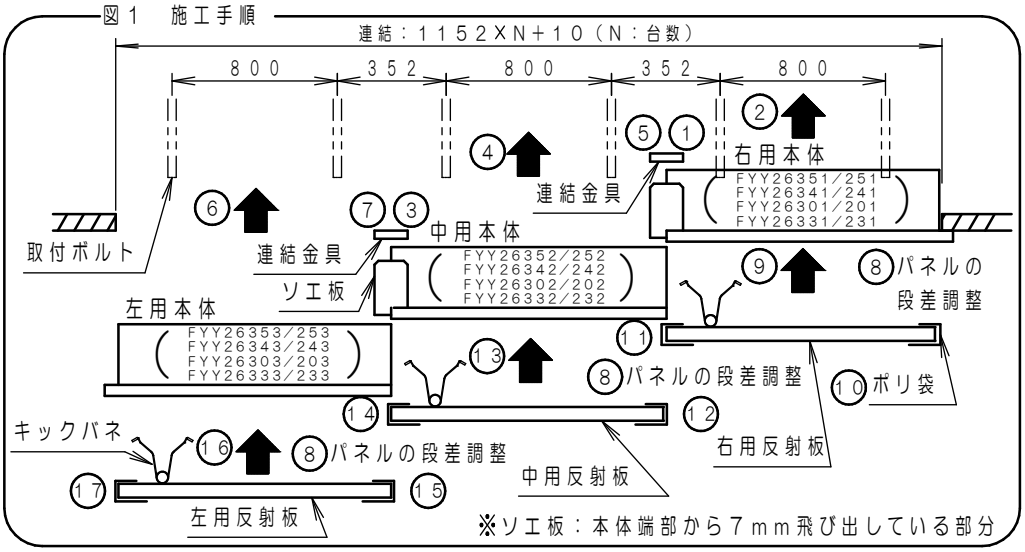


図２　本体の段差調整

・段差が発生した場合は、本体が内に入っている側（①）は、ナットを一旦緩めて弱いトルク（最小０．６Ｎ・ｍまで）で締めて外に開いている側（②）は、強く締めて調整してください（最大１．０Ｎ・ｍまで）。
（手で段差部をおさえながら調整してください）

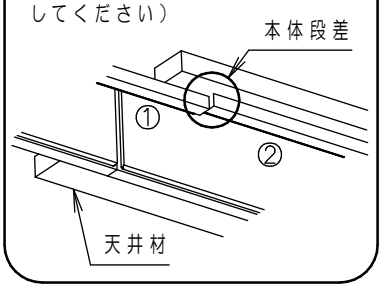


図３　パネルの段差調整方法

・連結時、パネルの段差については、調整ネジを時計回りに締め付け、パネルを可動させ調整を行ってください。

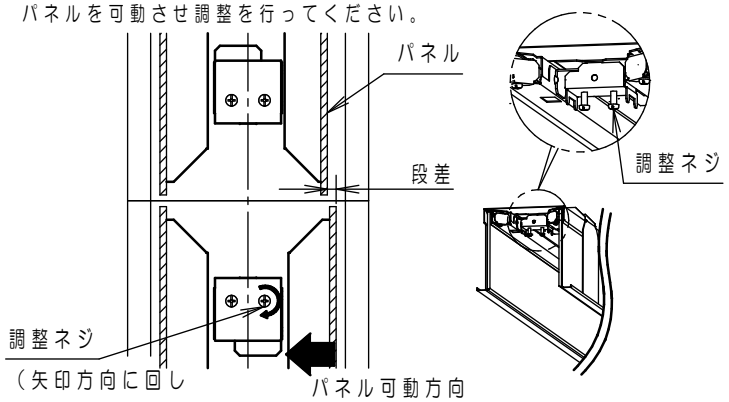
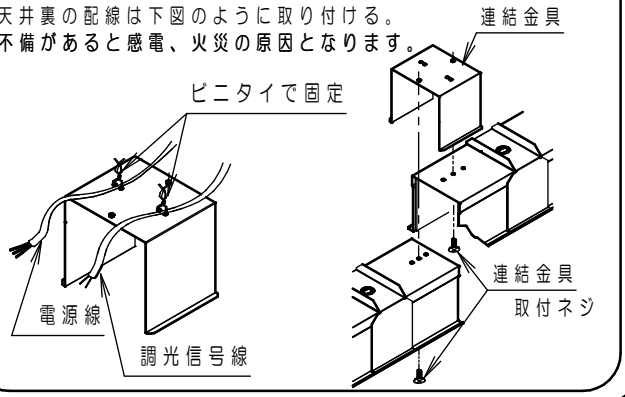


図４　連結金具の取付方法

・連結金具についている取付ネジ（２個）を使用してください。
・器具内送り配線は出来ません。
器具間送り配線は、天井裏に戻して配線してください。
天井裏の配線は下図のように取り付ける。
不備があると感電、火災の原因となります。



取説Ｎｏ．ＦＹＹ２６３５０－Ｔ９

取扱説明　**お客様へ、この説明書は必ず保管ください。**

・ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意

⚠警告

●器具を分解、改造しない。落下・感電・火災の原因となります。
●万一、煙が出たり、変な臭いがするなどの異常が発生した場合、すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼する。
　そのままで使用すると、感電・火災の原因となります。

⚠注意

●お手入れの際は、必ず電源を切ってください。感電の原因となります。
●シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で器具を拭かないでください。変色、変質、強度低下による破損の原因となります。
　水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
●照明器具には耐用年限があります。設置して１０年（※１）経つと、外観に異常がなくとも内部の劣化は進行しています。点検交換してください。
　※１：使用条件は周囲温度３０℃、１日１０時間点灯です。
　ＬＥＤ光源は光束維持時間が来ても、暗くなりますが点灯し続けます。点灯出来るからといって継続して使用が可能というわけではありません。
●１年に１回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。３年に１回は工事店などの専門家による点検をお受けください。
　（チェックシート番号：ＣＬＸ２０２１ＨＡ）　点検せずに長時間使い続けるとまれに落下・感電・火災に至る場合があります。
●点検を行っていても、耐用の限度を超えて使用すると、火災・感電・落下などに至る場合があります。

■ＬＥＤ照明器具の光束維持時間（※２）は、４０，０００時間（光束維持率８５％）です。（照明器具の耐用年限とは異なります。）
※２：光源の光束維持時間は、点灯しなくなるまでの総点灯時間または、全光束が点灯初期の８５％に下がるまでの総点灯時間の
　　いずれか短い時間を推定したものです。

使用上のご注意

●光源として高輝度ＬＥＤを使用しています。光源部（パネル付点灯ユニット部）を長時間直視しないでください。
　眼に障害をあたえるおそれがあります。
●ＬＥＤ素子にばらつきがあるため、点灯ユニット内のＬＥＤ個々及び同一商品でも商品ごとに発光色、明るさが異なる場合があります。
　あらかじめご了承ください。
●ＬＥＤは交換できません。
●バーコードリーダーの機種によっては器具付近で使用した場合、読み取り感度が鈍くなることがあります。
　この場合には、器具との距離を離すか、遮蔽するなどの対策を講じてください。
●ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離して使用してください。雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
●同時通訳機などの誘導無線を使用する場合、雑音が入る場合があります。事前に確認し、対策を講じてください。
●周囲温度が高い場合、点灯時間が長い場合などは耐用年限が短くなります。
●電源電圧変動などの影響により瞬間的に明るくなったり暗くなったりする場合があります。あらかじめご了承ください。
●光出力比（％）と目で感じる明るさ感には相違があります。
●コントロールと組合せて使用した場合、下記のような状態がありますが異常ではありません。
　同一器具または同一品番で点灯および消灯時のフェードのしかたが異なる場合があります。
　低い調光域では段調光のように動作する場合があります。
　適合コントロール側のスイッチで消灯した場合、消灯後もパネル付点灯ユニットが薄暗く発光する場合があります。

保証について

・保証について・・・・・・この商品の保証期間は１年間です。但し、ＬＥＤ電源は３年間です。詳細は当社カタログを参照してください。
・保証書について・・・・・保証書が必要な場合は、当社代理店または当社営業所へお申し出ください。
・補修用性能部品の保有期間・・・・当社はこの照明器具の補修用性能部品（電気部品）を製造打ち切り後、６年間保有しております。
　補修用性能部品には、同等機能を有する代替品を含みます。

お手入れ方法について

・器具の清掃について・・・・・・・水または中性洗剤を浸した湿り気のある柔らかい布をよく絞って、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
　パネル面は乾拭きしないでください。ホコリが付きやすくなるおそれがあります。
　シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤で拭かないでください。
　変色、変質、強度低下による破損の原因となります。
・反射板の取り付け、取り外しについて・・・3ページ「＜反射板の取付方法（取外方法）＞」を参照してください。
　不備があると反射板の落下の原因となります。

⚠警告

●感電のおそれあり。
お手入れ時は、必ず電源を切ってください。

■定格 ＜ＬＡ９方式＞

高光束タイプ

定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V
周波数	50／60Hz		
入力電流	0.83A	0.40A	0.34A
消費電力	82W	80W	80W

低光束タイプ

定格電圧	AC100V	AC200V	AC242V
周波数	50／60Hz		
入力電流	0.50A	0.25A	0.21A
消費電力	49W	48W	48W

■リサイクル　照明器具を廃棄する場合は、法に基づいて適切に処理してください。

パナソニック エレクトリックワークス株式会社　〒571-8686 大阪府門真市門真1048
お問い合わせ先　照明器具・ランプ商品ご相談窓口　https://sumai.panasonic.jp/support/
0120-187-441（フリーダイヤル）【受付時間】月～土/9:00～18:00（祝日・三が日を除く）※携帯電話からもご利用になれます。
0120-872-460(FAX)

MN0117-090326